

「第14回つゆ草の集い」(平成27年6月開催)は現役の高校生がたくさん参加してくれまして大いに盛り上がりしました。ホームページにその様子を掲載していますが、今回の紙面にもその一部を掲載いたしました。結構楽しい時間を過ごせることがわかっていただけたと思います。たくさんの方に集まっていたいただきたいと思いますが、特に30期、40期、50期の皆さま、社会の中心でご活躍され、大変お忙しいとは思いますが、6

京都教育大学附属桃山中学校
同窓会会長 瓦谷泰浩(21期)

つゆ草第18号が皆さまのお手元に届くころには我が京都も春の装いで賑わっている頃だと思えます。同窓生の皆さまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は同窓会の活動にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年は3年に一度開催します、同窓会総会「つゆ草の集い」の年でありませう。今回は世界的指揮者である35期の阪哲朗さんに講演を、また、56期の齋藤奈都美さんにピアノコンサートをお願いしました。附属桃山らしい音楽にあふれた楽しい集まりになることと思います。前回



ごあいさつ



第 18 号
京都教育大学
附属桃山中学校
同窓会 会報
発行人 会長 瓦谷泰浩
京都市伏見区桃山井伊掃部東町16
TEL (075)-611-0264
FAX (075)-611-0371

月9日の夕方、しばしの間忙しい生活を忘れ、中学時代の懐かしい時間に戻って楽しいひとときを過ごしましょう。また、今回より大先輩の方々、6期より以前の皆さまは会費を若干安くさせていただきますが、会費の問題ではないと思えますが、是非ともまた、お元気な姿を見せていただきたいと思えます。さらに教職員の方々にも、同窓生一同お会いするのを楽しみにしておりますので、是非足を運ぶください。

ここ2回ほど振込用紙を同封しまして、ご寄付をお願いしてまいり、たくさんのご厚志をいただき、同窓会財政は潤沢なものとなりました。おかげでホームページの運用や「つゆ草の集い」の会費面での配慮などいろいろなことに使えるようになりまして、厚く御礼申し上げます。また、母校への貢献なども含め、有意義に使わせていただこうと思っております。なお、今回は振込用紙を同封する方法はとっておりませんが、ご寄付はいつでも受け付けておりますので、よろしく願います。

最後にになりましたが、同窓生の皆さま、母校、附属桃山中学校とお世話になりました。教職員の皆さま、そして同窓会の今後一層の発展を祈念いたします。ご挨拶とさせていただきます。

第15回 つゆ草の集い

京都教育大学附属桃山中学校 同窓会総会

■とき

2018年6月9日(土)
午後3時 受付開始
午後4時 開会
午後7時 終了予定

■ところ

ハイアットリージェンシー京都
<https://kyoto.regency.hyatt.com/ja/hotel/home.html>
東山区三十三間堂廻り
TEL.075-541-1234

■会費

社会人 10,000円
(1期~6期 5000円)
大学生 3,000円
高校生 1,000円

※ 出欠のお返事は同封葉書にて
5月7日(月)までにお願いします。

(注) 出席のお返事を頂きながら、
当日ご欠席されました際には、
会費をご負担頂く場合もありますので、
何卒ご了承下さい。

講演

「ドイツの歌劇場と指揮者の日常」

■ 講師
指揮者

阪 哲朗 氏(35期)

欧米での客演が数多く、これまで主にドイツ、オーストリア、スイス、フランス、イタリアなどでオーケストラ、歌劇場に招かれ成功を収めている。日本ではNHK交響楽団をはじめ各地の主要オーケストラ、新国立劇場、二期会などのオペラ団体を指揮している。スイス・ビール市立歌劇場専属指揮者を皮切りにベルリン・コーミッシェ・オーパー専属指揮者、アイゼナハ歌劇場音楽総監督、レーゲンスブルク歌劇場音楽総監督などを歴任。1995年「第44回ブザンソン国際指揮者コンクール」優勝の他、受賞多数。



ミニコンサート

ショパン バラード第3番 変イ長調 作品47
山田耕筰 ピアノのための《からたちの花》他

ピアニスト

齋藤 奈都美 氏(56期)

同志社女子大学音楽学科卒業。新島賞受賞。同大学音楽専攻科首席修了。神戸学院大学大学院音楽研究科修士課程修了。那須姉妹特別奨学金、フランスの作曲家セシル・シャミナードの研究論文に対し女性学インスティテュート受賞。ウィーン国立音楽大学マスタークラス修了。2015年京都文化博物館別館ホール、2017年青山音楽記念館バロックザールにて「知られざるシャミナードの世界」と題したリサイタル開催。現在、ピアノ講師及び同志社女子大学にて伴奏を務めながら、積極的に演奏活動を行っている。



皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

京都教育大学附属桃山中学校同窓会

中学校から

同窓会の皆様へ

副校長 佐々木 稔

校内の桜が満開となり、本校の四季の風景の中でも最も美しい季節となりました。

同窓会員の皆様におかれましてはますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。平素より本校教育の推進にご協力、ご支援を賜りましてありがとうございます。

「ひろがる環」は、「つながり」の環



校門を入ってすぐ左の幼稚園側との垣根に立つ、このモニュメントは、今から20年前、21世紀の幕開けを前に、人と人のつながりの「環」、人と自然のつながりの「環」、そして、ますますその「環」をひろげる、可能性に満ちた生徒たちの姿を主題にして制作されました。本校創立50周年記念モニュメントとして、本校第20期生で彫刻家の九後 稔先生によって制作された

作品です。

今、21世紀に入り、あらゆる領域で多文化化、グローバル化が急速に進み、ある一定の「正解」を共有できた20世紀の「成長社会」から、価値観の多様化、複雑化が進む「成熟社会」へと大きく転換しています。そこでは、これまで予期しなかった課題が、複雑に絡み合いながら、待たなして私たちに次々と突きつけられ、それらの解決困難な課題に対して、新たな発想や視点で主体的に、創造的に、協同的に解決を図っていく力が求められています。また、昨今のAIとITの加速度的な進化を背景に、これからのAI時代に向けた学校教育のあり方についても各界から待たなしの教育改革が突きつけられており、AIに取って代わられることのない、より「人間としての強み」としての資質・能力が求められています。

今まさに、このような時代だからこそ、決して浮き足立つことなく、生徒たちに人や自然との「つながり」をいっそう意識させ、持続可能な社会の担い手となつて自律し、他者と共生しながら課題解決を図っていける資質や能力を育ませることが、私たち大人や学校教育に課せられた使命だと考えています。

ここでは、本校での「つながり」を意識した取組の一端を紹介しましょう。

知を「つなげ」、課題解決力を育むために

本校では、総合的な学習(MET)として「環境」「国際」「福祉・健康」「生き方」をテーマに、2・3年生混合の希望選択による14コースの講座が

開設され、生徒たちはグループごとの探究的な学びを通して、課題設定、体験・調査による情報収集、分析考察、まとめ、発表と、課題解決力の基礎を主体的に協働的に学んでいます。(コース名の例…「Hello Newspaper」「難民問題の今を探る」「子どもの食」「世界の今の日本を知ろう」「法と社会と私たち」など)



帰国生徒が輝き、全校生徒が世界と「つながる」ために

現在、国立大学附属中学校では3校のみ(西日本では唯一)となった帰国生徒学級を特設し、日本語や教科学習等の個々の課題に応じた指導支援を充実させるとともに、彼らのグルー

バルな資質を最大限に活かし、自己肯定感を育みながら、帰国生徒を核とした全校的な国際教育に取り組んでいます。また、世界とつながるために留学生との交流会や国際交流プロジェクトにも積極的に参加しています。



幼・小・中・高の子どもたちの学びを「つなぐ」ために

さらに、隣接した附属幼稚園や附属桃山小学校とは「12年間の学びをつなぐ」幼小中連携教育に取り組んでおり、各校種の独自の文化を活かしながら、互恵的な学びを追究した異年齢交流学習が実践されています。また平成26年度より4年間、文科省より指定を受けて外国語教育強化地域拠点事業として、小、中、高が連携して、12年間の英語教育をつなぐカリキュラム開発にも取り組んでいます。

このように附属桃山中学校の生徒たちは、落ち着いた環境の中でしっかりと学び、今日も「豊かな感性・輝く個性・拡がる共生」を合言葉に、元気に明るく人懐こく、本校ならではの充実した中学校生活を存分に楽しんでいきます。

最後になりましたが、教職員一同、同窓会のみならずご発展を桃山に陵よりお祈り申し上げます。今後とも本校の教育活動の発展のためにご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



京都教育大学附属桃山中学校同窓会

同窓生寄稿

京都市の理科教育



京都市青少年科学センター
所長

瀬戸口烈司(10期)

第二次大戦後の設備不足・予算不足・人員不足に直面した京都市は、1951年に、理科の実験・実習を数校まとめて「科学教室」で実施しはじめ、これを土台に、1969年に青少年科学センターを設置した。小・中学校の理科の実験・実習の主要部分は科学センターでおこなない、教員が担当するのである。教員20名ほどが数年間は科学センターに常駐して、実験・実習の研修、教材の開発に従事し、実験・実習をする。京都市立小・中学校の児童・生徒は、1年のうち1回は科学センターで実験・実習を受講する。1970～80年代の経済の高度成長期に、科学センターは順調に発展した。1990年代にバブル経済が崩壊すると、京都産業界は危機感をつよめて「青少年と科学の会」

を発足させ、「青少年のための科学の祭典」を科学センターに誘致した。これは、ノーベル賞受賞者を多数輩出している京都の大学・企業の科学・技術のレベルの高さを京都の理科教育に反映させるという特色をもつ。祭典のなかの企業の参画の比率が減少すると、小・中学校の児童・生徒がみずから祭典の企画・運営を担い、自分たちの研究成果も発表している。

京都市の理科教育は、ずいぶんと充実したものになっている。

ハンセン病問題は まだ終わっていない



社会福祉法人恩賜財団済生会支部
大阪府済生会
ハンセン病回復者支援センター

加藤 めぐみ(22期)

皆さんは、ハンセン病問題について聞いたことがありますか。全く必要がないのに、日本の国が1907(明治40)年に法律を作ったハンセン病に罹った人を療養所に強制隔離し、1996(平成8)年まで89年間も続けてしまったことよって起きた問題です。私は今、大阪にある「ハン

セン病回復者支援センター」で働いています。ハンセン病になったために強制的に療養所に入所させられた人が、現在もなお国立13園、私立の病院1カ所で1500名弱も暮らしています。そして、私たちの街にも回復者は暮らしています。大阪への里帰り支援や医療や介護を利用するための相談支援をしています。また、ハンセン病問題の研修講師も回復者の方と一緒に務めています。

ハンセン病は恐ろしい病気だと国が喧伝し、市民も病気の人を見かけたら通報するなど協力してきたため、現在もハンセン病であったことがわかると家族が結婚に反対されるなどの差別があります。ハンセン病問題をどう学ぶか、どうすれば解決に向かうのか、いつも考えているところです。

『ピーター・パン』は 童話じゃない



京都大学
人間・環境学研究科教授

水野 眞理(22期)

京都の大学で英国の文化や言葉

を教えています。この文章を書いて

もう一つ挙げるとすれば、中国からの留学生が書いた、オスカー・ワイルド(あの幸福の王子)の作家ですが、19世紀末の耽美主義と頹廢も体現していました)の中国における受容史でした。日清戦争での敗戦後、積極的に西洋文化を取り入れようとした時期から、共産主義に資さない文学が否定された時期、特に文化大革命期を経て、20世紀末に再び芸術としてのワイルド作品が再び評価されるようになった経緯を丹念に追った研究です。日本人として英文学を受容するだけでなく、隣の国の人々がどのように英文学を研究してきたのかに目を向ける機会は貴重でした。停年退職が近くなった

今でも、若い人たちから学ぶことは
いっぱいあります。

十年一昔



同志社大学
免許資格課程センター

田中 曜次(29期)

中学校を卒業して40年が経ちました。昭和の終わりから桃中の社会科でお世話になり、10年前に退職しました。桃中の頃は、年間100人もの教育実習生が来られていたが、今は教職課程で送り出す事をしておりません。

ちょうどその頃から定期的に同窓会を開いています。京都中学校の同窓年の人たちから声をかけていただいたのがきっかけでした。以来、夏季オリンピックの年に2つの中学校の合同の同窓会を開いています。最初は北京オリンピックの年でした。そのころはまだ子育ての真っ最中の人も多く、元気があったように記憶しています。それから10年経つてみると、みんな状況は大きく変わっているようです。一番は、「子ども」の話題が

「孫」に変わったことです。ロンドンオリンピックのころはまだいなかった、「おじいちゃん・おばあちゃん」がリオオリンピックのころからちらほら出現し始めました。今では、2桁に迫る勢いです。良い話題ばかりではありません。孫」とともによく話されるのは、「介護」です。親の「介護」は「孫」より早くしかも着実に広まっています。皆さんたいへんな状況を抱えておられることと思います。介護の心配をせず、気軽に同窓会に出席できる世の中になつてほしいものです。

競泳選手として、人として



辰巳 海斗(67期)

最近、スポーツ選手の不祥事がニュースを騒がせています。「きつい」「厳しい」「苦しい」いわゆる3Kの練習に耐え、トップアスリートとなった選手の事件は本当に残念でなりません。

私は現在、水泳の競泳選手として日々練習をしています。しかし現役選手でいる時間より引退後の時間の方が長いのは競泳選手にとって避けられない事実です。そのいつか訪れる引退後を見据えて、私は「流の選手

である前に二流の人間であれ。」を信念にしています。

高校生になつてリオ五輪のメダリストの選手の方々と一緒に海外遠征合宿をさせてもらえる機会がありました。そんな憧れの選手は誰もが人間的にも尊敬できる方達でした。同行の一流選手は二流の人間だったのです。やはり「人」としての成長と「選手」としての向上は正比例しているのだと思います。そんな先輩を見習い、まだまだ発展途上ですが「人」として「誰にでも応援してもらえぬ選手」を目指していきます。

私は今春からインカレ水泳三連覇中の東京の水泳強豪大学に進学します。その過当競争の中で「附属魂」と「不撓不屈」の精神を基に、心・技・体全てを備えた選手となり、東京2020を目標に頑張る覚悟です。そうすることが附属桃山時代の担任(水泳部顧問)の先生をはじめお世話になつた方々への今の私にできるほんの少しの恩返しであると考えています。



卒業して見えたこと



芝本 登萌(69期) 花村 悠太(69期)

私たちは昨年附属桃山中学校を卒業しました。つゆ草同窓会の二員となり、一年間様々な集まりに参加し幅広い年代の方と交流することができました。

私たち2人は幼稚園から現在の高校まで約12年間附属でお世話になっていきます。その中でも中学生の期間はすくなく濃い時間でした。勉強面では小学校よりも難しくなり、友達面ではぶつかることもありましたが、しかし、今思うと無邪気での不安もなく、今が楽しいと純粋な心で思えた期間でした。具体的に附属桃山中学校で学んだなど思ったことは「積極的な行動」です。芝本は2年間生徒会に入ったり花村は3年間環境委員を務めたりと、誰かのために行動することの大切さや責任感を学びました。その経験を生かしてつゆ草同窓会の集まりにも参加し自分たちの立場をしっかり全うしていきたいです。

同期会便り

京都教育大学附属桃山中学校同窓会

第2期 (昭和25年卒)

平成26年2月18日(土)19日に傘寿のお祝いを兼ね越前・芦原温泉「まつや千千」でかに三味の「泊旅行」を楽しみました。

私たちは6年間を国民学校で過ごし昭和22年に最初の新制中学1年生として本校に入学、昭和25年に卒業しました。クラスは2クラスで人数は学年で70〜80人でした。

同期の「泊旅行」は平成元年の館山寺温泉で始まり、長島温泉そして中学時代の修学旅行で訪れた「浦島」(修学旅行時の勝良荘が増築改名)宿泊の勝浦温泉への還暦記念旅行を経て、平成7年に2期会を設立、平成9年の下呂・高山から2期会行事としての「泊旅行」をはじめ、平成12年には卒業50周年記念の「52期生卒業式」出席と中学時代の恩師5名を招いての「魚三樓」での食事会、その後、横浜・鎌倉、湯布院温泉、川治温泉、和倉温泉、馬籠・昼神温泉、玉造温泉、信州・上山田温泉、祖谷溪温泉とほぼ1、2年毎に実施、そして本誌写真の「越前かに三味」に至っています。

会員八十路を超えた私たちは、近い将来には、この写真から一人ずつ消えていくのが世の習いとは言え、ただ一人あまりにも早く消えてしまったのが南丹市美山町「正願寺」

住職の菅原道生さんです。氏はJTB役員時代から、その経験を活かして同期の全旅行会の幹事役を務めてくれました。改めて、感謝をこめて合掌。

何はともあれ、中学卒業後70年近く、戦後の困難を乗り越え今日在るのは親の愛情と先生方の温かいご指導、固い絆で結ばれた同期の友情のおかげです。つゆ草同窓会のかぎりない発展を心からお祈り致します。

大橋 亮一(2期) 松井 京子(2期)



第3期 (昭和26年卒)

第3期生は中学卒業の時、総数99名のため同期会を「九十九会」と



小嶋 康博(3期)
城 博之(3期)

し、卒業後も殆ど毎年集まっています。関東在住のメンバーも欠かさず出席！
 昨年も10月10日京都「順正」にて40名近くの健常者が集い、小学生の頃集団疎開の想い出話や中学生の授業時間以外の先生方との想い出話等々。また、来年も元気で逢うことを約束しながら交歓の時を持ちました。

第7期
(昭和30年卒)

みしな会の29年総会は平成29年11月27日(月)12時から快晴の下、祇園の平野屋「本店」で開催された。八坂神社の敷地内に平野屋「本家」もあり案の定間違う者も何人かいた。劈頭ヤジさんが昨日死んだ。葬式明後日という者あり。前年にも1名死去で卒業生94名中生存者77名、往復はがきの返信率は61%、本日の出席者は20名、ドタキャン1名で出席率26%。自分の名前を書き忘れていた者が4名。老朽化だね！それでも郵便番号やスタンプから幹事は名前を割り出していた。群馬県太田市、横浜市など遠方から駆けつけてくれた者もいた。来年は傘寿祝で全国から集めようやと言うことになった。
 シーズンの所為もあり店は東洋系の外人で一杯。騒がしい中で当方もわわしいことであった。体調が優れず来れないと、ハガキに書く者10名。ここに来ている者は皆元氣者、まだスキーをやる者やかく言う筆者もサッカーボールを蹴っている。来年も来られるように元気で居ようということになった。殆ど全員が八坂神社内にある長楽館で二次会。といっても殆ど全員が紅茶・珈琲、16時まで駄弁った。まだ物足りないか遠方からの者を囲んでミュンヘンでビール飲む男共、別所でお茶を飲む女性共、何をしゃべっていたかわからないが、すんなりと時間が流れて行った秋の楽しい1日であった！

総会以外にこんな会合もあった。眼を悪くして、出たくても来られないという人がいた。それではというので彼女が動ける近傍の海宝寺で平成29年4月7日(金)みしな会有志の「食事会」を呼びかける者がいた。何と20人参加。勿論彼女を送迎した。普茶料理は4人1皿で出てくる。彼女は目が見えにくい。隣の男性がちゃんと彼女の皿に取分けてやっている。終りに茶葉を入れたご飯が出たが満腹で食べられない。あの女性が寺に断つてサララップに包み持ち帰った。貧しいからではない。彼女はいつもお茶時にそうしているという。世界では餓死者が一杯いる。私も少し持ち帰ったが妻に喜ばれた。「いいね」と言える1日だった。

留岡寛(7期)



第9期
(昭和32年卒)

喜寿雑感

18歳と81歳の違い

道路を暴走するのが18歳
 道路を逆走するのが81歳
 心がもろいのが18歳
 骨がもろいのが81歳
 偏差値が気になるのが18歳
 血糖値が気になるのが81歳
 恋に溺れるのは18歳
 風呂に溺れるのは81歳
 まだ何も知らないのが18歳
 もう何も覚えていないのが81歳
 自分探しの旅をしているのが18歳
 出かけたまま分からなくなつて、皆が探しているのが81歳

私たちが9期生104名は、昭和29年4月に胸を躍らせて入学し、昭和32年に晴れて卒業しました。この3年間の中学生生活は、今に至る60有余年に亘り、同期生に、非常に強い仲間意識を育てました。
 現在、毎年東西に分かれて、関西地区は春に、関東地区は秋に、それぞれ30名余の参加を得て盛大に開催しています。(写真は平成29年5月太閤園にて)



過去2回東西合同で、還暦の時には、修学旅行で行った信州のホテル井筒に泊まるという素晴らしい同窓会を。古希の時は、大阪と東京の中間の静岡・浜松館山寺温泉で泊りがけの同窓会を実施しました。
 関西地区では、松本さん、岡さん、西川さんをリーダーとして、夏季猛暑2カ月を除く、毎月1回日曜日に健康ウォーキングをして、足腰の強化を図り、できる限り健康寿命を伸ばそうと努力しています。
 今後の希望は、2年後の東京オリンピックに、9期生の東西合同同窓会が開催できればと思っています。
 木下 尚久(9期)

第19期 (昭和42年卒)

もうすぐ80歳なのにますますお元氣な種村裕伯先生をお迎えし、平成29年9月30日(土)午後5時より、新阪急ホテル「階」すみれの間に、同期会を開きました。幹事は久下恭功、土屋宣之、橋本(和田)やよい、堀川万佐雄、景山(中西)美代の各氏。全部で29人集まりました。



その内訳は、「子供が泣くから臨床には向いてない」と嘆く医師、英語の先生に、「何じゃこの答案は」と叱られた思い出は忘れて来てくれた人、筆者と同じく耳が聞こえない元教員、店に客が押し寄せている経営者、隠岐の島から精勤に出席する女性、途中で転校しても連絡がつくので関東から来てくれる

女性、別れ際に誰かさんとハグして口の固い筆者に「主人に言わんといてや」と失礼なことを言う女性、などなど。ありがとう。また会おう。詳しくはHPで。

本庄 良文(19期)

第24期 (昭和47年卒)

平成28年9月24日、京都ロイヤルホテル&スパにて還暦記念京都教育大付属幼小中高合同大同期会が開催されました。全体の出席者は122名。先生16名、桃中は袖岡先生、小島卓先生。生徒116名(桃中、京中ともに、50数名)。先生方には、持ち時間2分でお話頂きました。皆さんお元氣です。

幼稚園、小中高のアルバムから選んだ写真を次々にプロジェクターに映して行きます。あちらこちらから声が上がりました。

市内で入院中の同期からのビデオレター、スイスからの動画も大画面で見ることができました。こんな事ができる時代になったんですね。

生徒は各々15秒、卒業からの人生をまとめるには短すぎる秒数ですが、マイクを持ち順番に近況を語り、全員の声を聴くことができました。

最後に集合写真を撮り、二次会へ移動、80名超が参加しました。三次会は、同期がやっているお店で和氣あいあいと。

集合写真は、120名超で顔が小

さくわかりにくいと思います。皆さんのスナップ写真をネットにアップし、出席した人も欠席した人にも楽しんでもらうことができました。

松居 香(24期)



第65期 (平成25年卒)

卒業から五年、成人式に合わせて、学年全体で同窓会を企画しました。当日は102名の同級生と3名の先生が出席してくださいました。ほとんどの同級生が集まってくれただけでなく、中には、ご結婚なされて広島に住んでいらつやった先生もおられました。遠路はるばる僕たちの成人を祝いに来てくださったのは、とても嬉しかったです。母校にいらつやる先生からは、成人祝いのメッセージを人数分のメッセージカードに先生の集合写真付きでいただきました。卒業してなお、僕たちのことを想ってくださっていることを感じ、本当に良い先生に出会えたんだなあという風に感動しました。同窓会の会場は2時間借りていましたが、数年ぶりに会う同級生や先生との話は尽きることなく、時間の経つのが一瞬でした。10年後の同窓会が今から楽しみです。また、多くの同級生が企画に関わっていて、協力し合いながら行事ごとを作っていくのは、いかにも附属桃山中学校だなあという風を感じました。

成人式を終えて、新成人として社会の一員という自覚が強まったような気がします。今までお世話になつてきた両親や学校の先生、多くの周囲の方々に感謝して、より一層の努力をしていつかは恩返しできるよになつていきたいと思っています。

松田 凌(65期)



京都教育大学附属桃山中学校同窓会

第14回 つゆ草の集い

2015年6月13日

京都ホテルオークラにて開催



12～19期



2～11期



31～67期



20～30期



学校ご挨拶 佐々木副校長先生



講演会 梶田真章氏(24期)



会長挨拶



コンサートで盛り上がる会場



ミニコンサート ターキーズ



乾杯ご発声 川崎先生



バレー部のお姉さん方



種村先生とサッカー部のお兄さん方



藤林先生



各テーブルにおいて



各テーブルにおいて



各テーブルにおいて



副会長挨拶



校歌斉唱 指揮：岡本さん(12期)

ホームページのご案内

今回のつゆ草第18号に平成27年6月に開催しました「第14回つゆ草の集い」の様子を掲載させていただきましたが、ホームページにはもっと多くの写真を掲載させていただいております。また、今回の「第15回つゆ草の集い」につきましても、掲載させていただきます。一度も見たことのない方、是非一度ホームページをご覧になっていただきます。すよう、お願いします。

ホームページには同窓会活動の報告の他、同窓会の開催結果や同窓生の活動や情報などを掲載しております。是非ご覧いただくとともに、同窓生同士の情報交換にも活用していただければと思っております。掲載する原稿、お待ち申し上げます。



【同窓会役員】(平成30年3月1日現在)

- | | |
|-----|------------|
| 会長 | 21期 瓦谷 泰浩 |
| 副会長 | 20期 龍村 薫 |
| 理事 | 3期 袋布 照子 |
| | 8期 伊吹 一郎 |
| | 10期 近藤 秀也 |
| | 13期 安岡 俊爾 |
| | 13期 百々 恵子 |
| | 16期 水谷 孝子 |
| | 17期 中川 陽子 |
| | 19期 安岡 雅子 |
| 監事 | 2期 松井 京子 |
| | 10期 辻 絢子 |
| | 19期 森川 順子 |
| | 22期 田村 直樹 |
| | 22期 田中 真須美 |
| | 33期 小林 裕直 |
| | 41期 篠田 匡史 |
| | 45期 桐村 慶二 |
| | 51期 山口 真希 |

（編集後記）
 これまでの寒空から一気に気温が春めき、梅の季節を通り越し、一気に桜の開花を迎えました。本紙が皆様のお手元に届くころには桜の花ももう盛りを過ぎ、新緑の色に入れ替わっているのではないかと、思いをめぐらせているところでございます。

さて、来る6月1日に開催予定の「第15回つゆ草の集い」につきましては、「音楽」をテーマに、世界的な指揮者であるO.B.の阪西郎氏をお迎えし、「ドイツの歌劇場と指揮者の日常」との演題でご講演いただく予定です。また、こちらもO.G.の齋藤奈都美氏による、「ピアノ演奏のミニコンサート」を企画いたしました。今回の「集い」にぜひ足を運ばれていただき、同窓や先輩後輩との旧交を深めるのに加え、同窓会に聞くことのできない音楽の指揮を執る側からのお話とクラシックピアノの調べに耳を傾けていただくひと時をぜひ味わっていただきたく存じます。会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今回のつゆ草は、皆様からいただきましたたくさんのご投稿や前回のつゆ草の集いの写真を見ていただけるように、お届けしたいとの気持ちから、ホームページの超豪華版といたしました。佐々木副校長からは附属桃山中学校の近況についてご投稿いただきました。昨今は何事もグローバルが叫ばれており教育も例外ではございませんが、そのお取り組みの一環として、生き生きと学ぶ現役生の姿も盛り交せ、ご紹介いただいております。また、10期の先輩から69期の若人まで、幅広い範囲から貴重なご投稿をいただきました。さらに、同窓会便りも2期（〜）から65期まで、これまで幅広い世代からお便りをいただきました。2期から69期までの実に67年にわたる同窓生の多彩さをお楽しみいただければと存じます。

私事ながら、昨春に転職し、人材育成の立場となりましたが、昨年の新人の中に偶然附中O.B.O.G.の遺跡を感じたものです。皆さんも、そのような経験がされた方がいらっしゃいますでしょうか？

なお本紙では各期の皆様からの同窓会便りのご投稿を心よりお待ちしております。また、本紙を楽しい写真とともにお寄せ下さい。また、本紙をご覧いただき、感想や本紙に対するご意見などございましたら、本紙発行にあたり、ご尽力いただきました関係者各位に深謝いたします。

本紙編集担当 小林 裕直(33期)